

## 韓国・国語教科書の詩 (2)

A Study on Poem in Korean Language Textbooks

足立悦男・金京姫

Etsuo ADACHI\*, Gyeong KIM\*\*

### 研究の目的

現在、国際科学研究（韓国・釜山教育大学と日本・島根大学教育学部）の一員として、国際理解教育の共同研究に取り組んでいる。私の分野は、国語教科書にみられる詩・物語の比較研究である。ここに紹介する「詩」は、日本・韓国の国語教科書研究の基礎資料として、韓国の国語教科書に載っている「詩」を、日本語に翻訳したものである。

私は、以前、韓国の国語教科書（中学校）の「詩」（アンソロジー）を翻訳・紹介したことがある。鄭淳功氏（当時、韓国慶尚大学付属中学校教諭。島根大学教育学部留学中）と、私の大学院の授業において、共同で翻訳し、『韓国・中学校の詩教材』（私家版 1993年3月）として刊行した研究資料であった。

本稿は、それについて、韓国の小学校国語教科書の詩教材の全作品を翻訳し、日本の研究者に紹介するとともに、韓国の詩教材の特徴について考察したものである。

現在の韓国の教科書は、第6次教育課程（1995年）にもとづくもので、1年生・2年生の教科書は1995年から、3年生・4年生の教科書は1996年から、5年生・6年生の教科書は1997年から使用されている。本稿はこのテキストによる翻訳である。

前号の拙稿「韓国・国語教科書の詩 (1) 『読み方』」（『島根大学教育実践研究』9号 1997年2月）においては、韓国の小学校国語教科書（現行版）の1年生から3年生までを対象としたので、ここでは、4年生から6年生までの詩教材を対象とした。

この翻訳は、私の大学院の授業（国語科教育演習Ⅰ）の中で行われた。韓国人留学生の金京姫さんが翻訳し、大学院生の日野雅之氏（隠岐島前高校教諭）、松原広行氏（大田第1中学校教諭）に、詩としての表現になるように目を通していただいた。そして、最終的に、私が校閲を行なった。

翻訳にあたって、韓国特有の風習・習慣・言語などについては、巻末に「注」を付けておいた。句読点は原文どおりであるが、一部、日本語表現の習慣に従ったところもある。

共同研究者の金京姫さんは、国立慶尚大学学校教育大学院を経て、現在、島根大学大学院教育学研究科に留学中の大学院生である。比較国語教育研究として日本と韓国の国語教科書の比較研究に取り組み、『日・韓の小学校国語教科書の考察』（修士論文 1999年1月）としてまとめた。

\* 島根大学教育学部国語科教育研究室 \*\* 島根大学大学院教育学研究科

【4年の詩】

4-1  
春の雨

遠く  
南の方から  
走ってきた春の雨  
すやすや眠っているような新芽を  
起こして  
赤ちゃんの顔のように  
かわいい花を咲かせるために  
土の奥までしっかりと  
しみこんできて  
とんとんやさしく  
手であやします。

4-2  
れんぎょうの黄色いお船

小川のほとりにいきました  
風にそって  
野の道にそって

ふわふわ  
れんぎょうの花ひとつ  
流れている  
一本橋のしたに

白いちょうちょうが  
流れる花の上に  
そっとそっとすわりました

れんぎょう<sup>1)</sup>は  
れんぎょうは  
黄色いお船になりました  
ちょうちょうはちょうちょうは  
白いお客さんになりました

水の流れにそって流れていきました  
遠く遠く流れていきました

4-3  
木々の小枝

木々の小枝が  
とんとんかなづちをうって  
緑色の風がやすみながら  
うなずきながら  
歌を歌って  
ちゅんちゅん  
思いっきり歌いながら  
椅子を作ります  
やさしい露も休んでいきます  
くちばしのきれいな鳥たちも  
とまっています  
木々の小枝が小さい椅子を作ります  
たくさんたくさん作ります

4-4  
私達きょうだい

井戸端には木のきょうだい  
空には星のきょうだい  
私の家には私とお姉さん

木のきょうだいは実をつくり  
星のきょうだいは光を出すけど  
私達きょうだいは何ができるかな

4-5  
私の弟

のこのこのこ  
わたしについてくる私の弟

なぜついてくるの

兄さんが好きだから  
弟は私が好きなんだ

ぐんぐん  
私についてくる弟

なぜまねするの  
兄さんがするんだから  
弟は私をみならってるんだ

わたしは弟の鏡なんだ  
弟のいい鏡になりたい

4-6

写 真

ぱちり  
笑うわたしの姿が  
写ってる

ぱちり  
いじわるな  
友達の姿も写ってる

ぱちりぱちり  
四角い空間に  
過去が写ってる

ぱちりぱちり  
丸いレンズに  
親しい心が写ってる

4-7

に じ

通って行く夕立が  
おいていった橋

ちらちら七色が

きれいに見える

誰を渡すために  
おいた橋なんだろう？

空の国の仙女が  
渡れるために？

いえいえ、仙女がわたる  
橋ではありません。

仙女たちがきれいにきれいに  
織っておいたシルクに

通っていく夕立が  
いたずらをして

太陽がこっそり  
乾かしているんです

4-8

雲が流れる音

雲が流れる音がするかしないか  
両目を閉じて静かに聞いてご覧なさい  
眠りの国のお月様が昇るかのぼらないか  
夢の中で静かに探してご覧なさい

夕顔の花が咲く音がするかしないか  
両目を閉じて静かに聞いてご覧なさい  
夢の国で蝶々が寝てるか寝てないか  
夢の中で静かに探してご覧なさい

4-9

落ち葉の手紙

一日中もみじのはっぱにきれいに書いた話  
鳴いていた鳥が聞かせてくれます  
毎朝仲良しになってくれと

お日さまが真っ赤に書いて送りました  
毎晩いちょうのはっぱに書いておいた手紙  
通って行く風が伝えてくれます  
毎晩きていっしょに遊ぼうと  
お月さまが黄色い色で書いて送りました

4-10  
郵便箱

街角  
ぼつんと  
真っ赤な郵便箱  
便りを持って  
速い足取り  
手紙のお客さんたち

一日やすんでいく  
一晩とまっていく  
手紙たちのやど屋

4-11  
けんかした日

けんかして  
うちに帰る日  
私の影はもっと長くなって  
町はもっと遠くなります

私は風ふく冷たい峠の上に  
やせた冬の木

お母さんの暖かい手が  
私の心を溶かして  
お母さんの愛の話が  
私の涙になります

その夜  
ずっと走っていきます  
月を抱いて  
友達のとりに走っていきます

4-12  
私の顔

友達が私をからかうと  
真っ赤になる私の顔  
どうしようもなく  
すすり泣く私の顔  
真っ赤な頬の上には  
すいかの種みたいな そばかすいくつ  
真っ赤な私の顔  
丸いすいかみたいな

4-13  
運動場

私たちの運動場は  
芝生の運動場です

毎朝  
正門に入ったら  
いつも待っていて  
青い胸で  
抱いてくれます

ボールを転がして  
楽しく走ったら  
芝生の運動場は  
かゆいかゆいと  
笑います

教室に入る  
わたしたちに  
退屈だから  
もっとあそんでと

せがみます

先生の前で

勉強していても

運動場を思い出したら

なぜかほっとします

4-14

耳かき

耳かきで

耳の中をほると

友達とこっそりした

はなしも

耳かきについてくる

先生の大事な話も

こなになってしまう

そう

小さい耳かきが

私の秘密を全部掘っているんだね

## 【5年の詩】

5-1

春のかくれんぼう

“しっかりかくれなさい

髪の毛見えるよ”

わたしが鬼になって叫ぶと

春はだまって身をかくします

さくらのこずえにいるの？

日当たりのよい芝生にいるの？

広い運動場のすみにもいるみたい

ほら

あちらをごらんなさい

校門の柳の枝のあいだに

ふかふかの

春の顔が見えました

走っていこうとしたら

春はあっという間に

あっちに手をふってにげました

“私はここにいるよ”と

黄色いれんぎょうのそばで笑いました

5-2

お日さま

おい、ドンス<sup>2)</sup>や

日が暮れるよ

真っ赤だよ

まんまるいものが

ぽんと

破れるみたいだよ

風も

そよそよ

草のはっぱも

そよそよ

雲も

こっそり後を追う

ああ、もう

沈むよ

少し残ってる  
今はつめの先ぐらい残ってる

あ！  
全部沈んだ  
あ！  
この世のすべてのものがとまってしまった

5-3  
雨はこんな時 降るものだよ

日ざしが強い  
運動場に立って  
私は空に上がって  
雨を降らせる人に  
雨はこんな時降るのだよと教えてあげたい

5-4  
遊び場

びよんと飛びながら  
なわとびしよう  
空までとどくように  
飛んでみよう  
雀たちも遊んでいく遊び場では  
きれいな夢が毎日  
すくすく伸びる

毎日わあわあ  
聞こえる声  
けらけら笑いながら遊ぶ  
遊び場では  
昼には子供たちの夢が育ち  
夜には星たちが  
休んでいく

5-5  
子供たちの歌

何食べて生きる

ブタ食べて生きる  
どんな箸で食べる  
鉄の箸で食べる

だれと食べたの  
一人で食べた  
くんくんブタを

5-6  
雨

雨よ 雨よ 降らないで  
私の姉さんが嫁ぐ時  
がまの中に水が入ったら  
チマ<sup>3)</sup>がぬれちゃう  
めんのチマかぶる  
雨よ 雨よ やんでくれ  
はやくはやくやんでくれ  
私の姉さんが嫁いたら  
いつまた 会えるかな  
姉さん姉さんと呼べるかな  
お嫁に行かないで  
お嫁に行かないで  
結婚が良いといっても  
我が家よりは良くないでしょう  
結婚生活がすべてそうだから  
結婚なんかしないで  
姉さんの嫁ぐ時  
雨よ 雨よ 降らないで

5-7  
子守り歌

後ろの庭で鳴く子牛  
前の庭で鳴く鳩  
姉さんの背中で私たち子ども  
息もきれいによく眠る  
前の山のドケビ<sup>4)</sup>が  
棒を持ってくると

窓をしめて 待っている  
隣町の橋の下の  
水が赤い  
前の山のふもとの大きい子どもの家  
植えたかぼちゃが花咲く  
耕しに行った兄さんはもどらない  
眠りだけがくる  
私たちの子どもはよく眠る  
後ろの家の犬もよく眠る  
前の家の犬もよく眠る

5-8

母のむね

鳥は鳥は木で寝て  
ねずみはねずみは穴で寝て、  
石についたかき あわびよ  
木についた松かさよ  
私は私はどこで寝るかな  
私の母のむねで寝る

5-9

詩人になって

旅行する汽車で  
夕立にあった日  
“かさ よく持ってきたね、  
重いけど”  
一つの停留所も過ぎないうちに

お日さまが出たのを見て  
“なんで持ってきたかな  
荷物になるのに”

5-10

山の鳥

赤ちゃんの鳥は  
一人で考えを育てます

長い長い夜  
母の胸に顔を入れて  
空の星を数えます  
  
その小さな胸で  
その小さな目で  
きれいで かわいいものを  
一つずつ学ぶ喜び  
  
巣にお日さまが顔を出すと  
朝がくることがわかります

母の鳥が山の中を飛ぶ時間が  
少しずつ 長くなったら

青い空に私の力で  
飛び込んでみて ということも  
目つきでわかります

5-11

足の指

私の靴下に穴が  
びよん  
足の指がギューと出た  
  
足の指はくねくね  
自分たちでよくあそぶ

私もみせて  
私もみせて  
お互い押しあっている

いやだ  
せっかく見物しようとするのに  
なんで押すのよ  
お互い顔を出す

しかし、お母さんが繕って  
足の指はまた  
暗い世の中で  
息もできずに生きることになった

5-12

あいてる枝に

あいてる枝に  
雲一つかけて行って

あいてる枝に  
白い雪が 座っていて

あいてる枝に  
緑の葉っぱが育って行って

あいてる枝に  
一羽の山鳥が休んで行って

あいてる枝に  
あいてる枝に

5-13

露のように

露よ  
あなたは どうして  
そのちいさい  
むねで  
世の中を  
全部抱いてるの？

露よ  
あなたのように 私  
心を  
磨いたら  
世の中  
ギュッと抱けるかな？

5-14

ことばあそび

屋根の上に ぞろり夕顔<sup>5)</sup>  
井戸のまわりに ぞろり夕顔  
柱の上に ぞろり夕顔  
部屋の隅に ぞろり夕顔  
水くんで飲む ぞろり夕顔  
米屋さんの ぞろり夕顔

5-15

タバックや<sup>6)</sup>

タバックタバックタバック、や、あなた  
はどこで泣いているの？  
母のお墓に乳のみにいく  
川が深くて、いけない  
川が深かったら泳いでいったら  
山が高くて、いけない  
山が高かったら這って登っていったら  
明太<sup>7)</sup>あげようか  
明太いやだ  
なすあげようか  
なすいやだ  
母の乳をくれ、母の乳をくれ  
母の墓のまわりに這い這いきて見たら  
色がきれいでおもしろそうなりが  
あったから  
両手で取って食べたなら  
母が生きた時に私にくれた乳の味だった  
明太あげようか？  
明太いやだ  
なすあげようか  
なすいやだ  
母の乳をくれ、母の乳をくれ

5-16

わらび<sup>8)</sup>の歌

上げると上がるわらび



下げると下がるわらび  
 ひろって折って  
 しっかり結んで  
 みんなで運んで  
 ひろって折って  
 前の柱にかけて  
 後ろの柱にかけて  
 広い釜で  
 さっと、ゆでて  
 前の川で揺らして  
 後ろの川であらって  
 刀のようによく切れる包丁で  
 さくさく切って  
 おいしくあえて  
 十二皿に分けて  
 お父さん来るかな  
 今日来るかな  
 明日は来るかな  
 来たらあげよう

5-17

しりとりうた<sup>9)</sup>

後ろの家の青年 木とりに行こう  
 お腹が痛くていけない  
 何のお腹 鯉のお腹  
 何の鯉 やなぎ鯉  
 何のやなぎ 青柳  
 何の青 大青

何の大 王大  
 何の王 殿様の王  
 何の殿 国殿  
 何の国 ます国  
 何の升 こめます  
 何のこめ むぎこめ  
 何の麦 あきむぎ  
 何の秋 もちあき  
 何のもち いぬ持ち  
 何の犬 狩いぬ  
 何の狩 雉(きじ)狩  
 何の雉 長雉  
 何の長 カンルン長

5-18

ホタル

ホタル ホタル  
 ぴかぴか ホタル  
 こっち来て遊ぼう  
 そっちにいくと暑い  
 こっちに来たらすずしい

ホタル ホタル  
 私の友達ホタル  
 そこにいくとみぞがあるよ  
 暗い夜に落ちたら  
 きれいな羽がぬれるよ

## 【6年の詩】

6-1

梅雨のあと

母が洗濯物を乾かすように  
 空が雲を

乾かしている

久しぶりの  
 日の出  
 本当にうれしい

6-2

言葉の光

使えば使うほど親しくなる  
私たちの言葉

磨ければ磨くほど輝く  
きれいな言葉

サランハムニダ (好きです) という言葉は  
無理にいわなくても  
空に自然と咲く夕焼け  
私を見てもらうために  
私が燃える光

コマップスンミダ (ありがとうございます  
す) という

言葉は  
いつも気持ちいい  
青い松の木  
私を育てるために  
私が爽やかになる光

ミアンハムミダ (すいません) という言  
葉は  
恥ずかしくて消え失せる  
謙虚な蛍の光  
私の心をあけるために  
私が小さくなる光

6-3

もう今は そんなこと

一人でバスに乗るのも  
恐くない もう今は

表示番号 よく見てのって  
止まってから順番に降りて  
急がなかったらいい

もう今は そんなこと

夜の路地  
一人で行っても  
恐くない もう今は  
しっかりしたら大丈夫  
もうそんなこと

恐い犬が追いかけても  
わんわん吠えても  
恐いことはない もう今は

目を合わせないで 走らないで  
ゆっくり歩けば大丈夫  
もう今は そんなこと

6-4

影

友達よ、私たち並んで肩寄せて  
一緒に歌いながら歩く時  
小さい私の背ぐらいに低いあなたの声と  
大きいあなたの背ぐらいに高い私の声と  
きれいに混じって青い空に響いて  
あなたの後ろをついていく長い影と  
私の後ろについてくる短い影と  
一緒になって重なるところ  
あなたは見たことある?  
友達よ そんなに重ねた影が  
私たち手を振りながら別れる時  
お互いに代わって  
私の影をあなたの家に  
あなたの影を私の家に  
連れて行くのを知ってる?  
別れて会いたい時  
私たちは代わりの影を持ってることを  
私は今日になってわかったのよ

6-5

月夜

庭いっぱい  
きれいな心をこめて  
お月様が  
壁に絵を描く

寝ている木を描いて  
夢見る花を描いて

道ゆく風が見物したら  
絵の中の木々が目を覚ます  
絵の中の花達が踊る

クレヨンがなくて 色塗りができなかった  
お月様が明るく笑っている

6-6

からすが黒いと<sup>10)</sup>

からすは黒いと、白鷺よからかわないで  
外が黒いと中も黒いか  
外は白く、中が黒いのはあなただけであ  
ろう

6-7

この身が死んで死んで

この身が死んで死んで百かい死んでも  
白骨になって靈魂があってもなくても  
あなたに向かう私の心は変わらない

6-8

窓を作ろう

窓を作ろう 窓を作ろう 私の心に窓を  
作ろう  
いろんな道具を使って心に窓を作ろう  
時々息苦しかったら開いたり閉めたりで  
きるような

6-9

泰山が高くても

泰山が高くても空の下のものだ  
登って、また、登ったら 登れないこと  
ないのに  
人は登らないで頂上が高いというばかり

6-10

北風は木の枝にふいて

北風は木の枝にふいて 明るい月は雪の  
中で冷たいのに  
万里の城で刀を持って立ち  
長い口笛を吹き大声を出すと怖い物がない

6-11

ひき蛙蠅をかんで

ひき蛙蠅をとって肥料の上に置き  
向こうの山を眺めたら鷹がいるからびっ  
くりして  
肥料の下に落ちちゃった  
アー早かったから本当によかった  
大変なことになったかも

6-12

背負った老人

背負った老人 その荷を私にくれ  
私は若いから石でも大丈夫  
老いるのも悲しいのに 荷物までもって  
いる

6-13

話しやすいと

話しやすくても 他人の悪口しなかった  
らよかった  
他人の話、私がしたら他人も私の話をす  
ることを

噂が、噂を作るから話さないようにしよ  
う

6-14

カラタチの実

アー もう

明るい秋の日差しの下で  
黄色い金色のボタンをつけて  
自慢している  
カラタチの木よ  
カラタチの木よ

6-15

落ち葉

秋の  
木々が  
はがきを書く

木の枝  
空に伸びて  
青いえのぐを  
描き出し

木々は  
はらはら  
はがきを飛ばす

誰もいない  
あいている庭に

木々が  
送る  
秋のはがき

6-16

詩を捕まえる

葉っぱに青い色があるように

葉っぱには葉っぱのような詩が隠れてい  
る。

みぞにコンコンと  
音が出るように  
水の中では  
水のような詩が隠れている。

花の中にきれいな  
香りがあるように  
花には花のような詩がある。

子どもたちよ  
あなたたちの目で  
葉っぱの詩を探しなさい。

あなたの耳で  
水の中の詩を聞いてみなさい  
花の中の詩の  
香りを感じてみなさい

子どもたちよ  
野原を走るように、蝶々を捕まえるよう  
に詩を捕まえなさい

6-17

一人になってごらん

友達と  
双子のように  
肩を組むのもいいんだが

雀の群れみたいに  
チュンチュン チュンチュン  
一緒に行くのもいいんだが

たまには  
本当に たまには  
一人でいてごらん

星の話  
覗くのも  
つぶやいている時計たちが  
話しかけるのも

そう、運動場の胸が響く  
遊んだ子どもたちが 去ってしまった  
遅い夜  
ぶらんこにひとりですわり、  
風のように口笛を吹いてごらん

巨人のような運動場が  
隣のおじいさんのように  
あなたを抱きあげ  
あなたの心の重さをはかってくれるから

6-18

青い空の中へ

土とり遊びしてる間に  
見上げた空  
青い紙一枚

線を引けない  
空の中へ  
やあっと  
先生が蹴ったボールが  
すうっと入る

子どもたちも  
先生も  
駆け込む  
青い空

6-19

瞻星台<sup>11)</sup>

ぺんぺん草さく場所に  
瞻星台が  
空を見上げている

ゆらゆら揺れるあの空に  
体をおいて、  
こっそり笑っている  
ひっそりした所の瞻星台

6-20

ブッチョン<sup>12)</sup>獅子舞

ブッチョン獅子舞おどりを踊る  
五色の毛皮のふくを着て  
大きい頭たれながら  
大きい目を開いて  
太鼓と笛にリズム合わせて  
踊りを踊る

ブッチョン獅子舞おどりを踊る  
前に行ったり、後ろに行ったり  
横に歩いたり  
寝転んであごをかいたり  
首を回して背中をなめたり  
いろいろな芸をして踊る

ブッチョン獅子舞おどりを踊る  
ゆっくりゆっくり歩いてくる  
前足をあげて  
高く立って  
大きい目を開いて  
赤いしたを出して踊る

6-21

コチュジャン<sup>13)</sup>

コチュジャンに麦飯赤く混ぜ  
鶏に食べさせると  
けんかで勝った  
血を流しながら 勝った

オリンピックで選手たちが  
コチュジャンスプーンを飲むと

力が出る  
金メダルを取る

ぼうしをかぶった蝶々が  
赤、黄色、青、

ほかの国へ移民に行く時も  
中東の砂の上でも  
満州の野原で独立運動をする時も  
つばのなかにコチュジャン入れてもって  
いた

虹の帯  
結んで  
つかんで揺れて

飢餓でお腹すいた時に  
コチュジャンひとさじあれば  
ごはんは蜂蜜のようだった

丸を描きながら  
いきおいつけて飛び込む

コチュジャンは  
乙支文徳將軍の歓声だ  
階伯將軍の大きい目だ  
李舜臣將軍の大きい目だ

ジーイン ジン  
ケゲンケゲン

コチュジャンは  
祖先の赤い血  
つよい力

豊年の汗が実る  
秋の空が楽しい

6-22

**農楽の音<sup>14)</sup>**

農者之天下大本  
空高くあげて、

6-23

**福チョウリ<sup>17)</sup>**

大みそ日、月もない暗い夜に  
寒い町を歩き回って叫ぶ声  
福チョウリ 買ってください、  
福チョウリ 買ってください  
新年にふくをもたらず 福チョウリ 買っ  
てください  
すべての福を胸いっぱい抱いてみてくだ  
さい

ジン<sup>15)</sup>の音  
ケンガリ<sup>16)</sup>の音  
清い空、広がっていくと

おばあさんはチョウリ屋さんを呼んで  
家族の数に合わせて、福チョウリを買う

ジン ジン  
ケゲンケゲン

これはお父さん、あれはお母さん  
家族に合わせて、一つずつ買う、  
すべての福をひろって福が来るように

[注]

1. 低木で早春の黄色い花をつける花として、韓国では春を代表する花として知られている。

2. 男の子の名前。
3. 韓国の伝統衣装のスカートの名前。
4. 韓国のお化け、鬼の名前。
5. 韓国語の詩では夕顔の名前をいろいろな言い方をしているが、日本語では適当な単語がなかったため、夕顔に統一して表現した。
6. 女性の名前。
7. 韓国で法事や祭りの時によく使う代表的な魚である。
8. わらびを使ってナムルを作って食べる習慣がある。
9. 韓国語でしか理解できない単語のつながりがあるので、音を借りて同じように翻訳しておいた。
10. 以下のシゾの作品は、韓国語では定型律であるが、意味の伝達のため定型律を守ることができなかった。
11. 韓国の慶州にある新羅時代に天文観測台として使われたと言われる建造物。
12. 地方の名前。
13. ご飯の粒や固めの粥を混ぜ、唐辛子の粉と塩を加え発酵させた調味料。
14. 農村で田植えや収穫時や祝祭日に、豊作の願いや親睦などを目的として演ずる楽舞。農旗を先頭に立てて、銅鑼、鉦、太鼓、笛などを鳴らす。
15. 楽器の名前。
16. 楽器の名前。
17. 米を磨ぐ時に用いるざる（細かい笹や針金などを三角に編んでつくる）。

## 韓国の「詩」の特徴

### 〔詩教材の目録〕

韓国の国語教科書の詩教材の単元は次のようである。

学年	単元名	数
1-1	7. 바람타고 동동동 (風に乗ってふわふわふわ)	10
1-2	6. 달 달 무슨달 (月々何の月) 14. 펄펄 눈이 옵니다 (雪が降ります)	13
2-1	3. 봄 노래 (春の歌) 14. 산바람 강바람 (山の風、川の風)	34
2-2	6. 가을 (秋) 14. 겨울 이야기 (冬の話)	30
3-1	3. 봄 소식 (春の便り) 11. 마음으로 부르는 노래 (心から歌う歌)	34
3-2	2. 맑은 햇살 아래서 (澄んだ日差しの下で) 12. 춥지 않아요 (寒くないよ)	24
4-1	2. 봄나들이 (春のお出かけ) 12. 아름다운 우리말 (美しい言葉)	20
4-2	4. 우리들의 시 (私たちの詩) 13. 보배 같은 말과 글 (宝のような言葉と文字)	22
5-1	1. 내가 좋아하는 시 (私が好きな詩) 13. 아이들의 노래 (子どもたちの歌)	27
5-2	2. 시인이 되어 (詩人になって) 8. 우리가락의 멋 (伝統リズムのすばらしさ)	21
6-1	6. 노래하는 마음으로 (歌う心で) 14. 선인들의 노래 (仙人たちの歌)	23
6-2	4. 파란 하늘 높은 하늘 (青い空、高い空) 12. 전통문화의 향기 (伝統文化の香り)	39

この目録は、詩を取りあげている単元を整理したものである。詩の数が多い理由としては、『話し方・聞き方』『読み方』『書き方』の三つの教科書に分けられていることと、日本と比べて韓国の方が詩教材を重視しているからである。そして、『話し方・聞き方』や『書き方』では、教師が指導書を読み、児童は聞いて感想を話したり書いたりするため、教科書に出ていない詩も多い。上記の数の欄は、教師用指導書で取りあげているすべての詩を含めて、児童が接することができる詩の数である。

### 〔4-6年の詩教材の特色〕

A) 韓国の教科書の詩の数を調査した結果、一年で学習する詩の数は平均49作品である。

韓国の詩教材は、『読み方』『書き方』『話し方・聞き方』の三つの教科書に分けて配分されている。また、『話し方・聞き方』の教師用指導書には教科書にはのせてないが、教師が読んで児童が聞く詩が多く含まれ、児童ができるだけ多くの詩に接するように構成してある。実際に韓国の子どもたちは、教師の力量によって、教科書に載っている数よりもっと多い詩を読んでいると予測される。そして詩の単元は前出の表で見られるように、各学年1学期（日本の上巻）に二つの単元があり、豊かな詩教材に接することができるように構成されている。



## B) 作品の内容としては季節や自然の変化を感じさせるものが多い。

学年別に『読み方』教科書の詩教材を翻訳した作品の中で、季節や自然に関する作品は多くあるが、その代表作品として、4-1「春の雨」6-15「落ち葉」などがある。韓国は春夏秋冬の四季を持っており、韓国人はその季節の変化を楽しんでいる。これらの詩は、韓国の四季をあらわしていると同時に、自然の変わりゆく変化を見つめることによって、児童の自然を愛する心を育み、季節の感覚を感じさせるためである。しかし、季節をあらわす詩の数が多すぎて、反復している。1年生、2年生、3年生にすべて冬や春の作品を入れているが、それによって児童が詩を楽しむより、飽きてしまう恐れがある。季節感を感じさせる詩は、特に低学年に配置されていることも特徴である。

## C) 親孝行や兄弟愛、友情を多く取りあげている。

4-4「私達きょうだい」4-5「私の弟」5-7「子守り歌」5-8「母のむね」6-23「福チョウリ」のような作品である。韓国では朝鮮時代から中国の儒教を受け入れ、国家の統治理念として使ってきた。論語にみられる忠、孝、信、義を大事にしている。儒教は支配者の論理によって作られたものであり、現実の社会では合わない部分も多く指摘されているが、韓国では現在もそういう思想が根強く残っていることを示している。支配者の論理であっても、根底に流れているのは人間に対する愛であり、韓国では儒教的内容の詩を多く見ることができる。それらの作品は、親孝行や兄弟愛、そして友達同士の信頼を大事にする内容を表している。

## D) 詩の表現技法として比喩表現が多く使われている。

4-3「木々の小枝」4-10「郵便箱」5-4「遊び場」5-11「足の指」5-13「露のように」6-15「落ち葉」などがそうである。韓国の詩を見ると比喩が非常に多い。上記の詩でも雨を糸や金、花に比喩している。このように物や自然を生きているものとして比喩している作品は多い。詩における比喩表現は韓国の詩の大きな特徴といえる。「秋の木々がはがきを書く」、「白い雪が座っていて」「春はだまって身をかくします」「手紙のお客さんたち」などの表現に見られるように物事を人間にたとえて表現しているところが多い。

## E) 5・6年生ではシゾが載せられている。

シゾは日本の俳句や短歌にあたる韓国の固有の定型律の詩である。形は3行で3434/3434/3543のリズムを持っている。翻訳する時は内容が通じるようにしたため、定型律を守ることができなかった。シゾは高麗時代の末から朝鮮時代にかけて発展し、ソンビ（韓国の昔の知識人）という人々が主に作って歌った定型詩であるが、朝鮮末期には形を崩し、一般の庶民の中でもシゾを作って、歌う人が出てきた。また、各シゾには作者の思いがあり、時代背景や内容の説明が必要である。

6-6「からすが黒いと」6-7「この身が死んで死んで」6-8「窓を作ろう」6-9「泰山が高くて」6-10「北風は木の枝にふいて」6-11「ひき蛙蠅をかんで」6-12「背負った老人」6-13「話しやすいと」などがシゾである。「からすが黒いと」は、高麗時代の官吏だった作者が、当時新しい国の朝鮮をつくるのに大きな功績を立てたが、一方の政府の官吏にも関わらず、二つの政府を支持したことに対する非難が強くなり、作者がそういう非難に対する答えとしてつくった作品である。「この身が死んで」は、高麗が滅び朝鮮がたった時、高麗に忠誠する心は変わらないという作者の思いを表している。「窓を作ろう」は、もどかしい心をどうしようもなく、心

に窓を作りたいという気持ちを表している。「泰山が高くて」は、何でも一生懸命やればなすことができるという教訓をふくむ作品である。泰山は中国にある山の名前である。「北風は木の枝にふいて」は、国を守っている将軍が恐れることなくしっかりと国を守っている気運を表現している。「ひき蛙蠅をかんで」は、自分より弱い人には強くて、強い人には弱い愚かな人が行動する姿をひき蛙に喩えて表現した作品である。「背負った老人」は、老いることは悲しいのに、荷物まで背負うとどうするのかという老人を尊敬する思想が入っている作品である。「話しやすい」とは、話という言葉を繰り返し使うことによって、話をする時は慎重にすべきであるということ伝える作品である。韓国の民謡は金素雲著『朝鮮の童謡』『朝鮮の民話』（岩波文庫、1972年）を参考にしていきたい。

#### F) 韓国の伝統文化を題材にした詩がある。

6-20「ブッチョン獅子舞」6-21「コチュジャン」6-22「農楽の音」6-23「福チョウリ（1年の福をもたらすと言われる米をとぐ時に使う取っ手のついたざる）」等は韓国の伝統文化をあらわす詩である。「ブッチョン獅子舞」は、ブッチョンという地域の獅子舞で韓国では無形文化財として保存され、また、行事の時にも最近はいろいろなところで披露している。特にこの詩では獅子の踊りをよく表現し、日本語では表現できないが韓国語のリズムにのせ、伝統の文化を楽しむことができる。「コチュジャン」は、韓国の食べ物にはなくてはならない存在として、唐辛子の粉で作られた味噌のような調味料である。日本でも知られているように、コチュジャンは韓国の料理に必ず必要な物であり、韓国人はその辛さを強く生きる力として取り入れている。特に、この詩は韓国人の歴史をそのまま出している。昔、韓国の田舎の方では、鶏にコチュジャンを食べさせて、けんかをさせる遊びがあり、コチュジャンを食べた鶏は、血を流しながらも最後まで戦うという話が残っている。また、オリンピックなどスポーツ選手たちが外国に行って競技をする時には、必ずキムチとコチュジャンを持っていき、行き先で食べて、力を出すという話がある。韓国はある時期、さまざまな理由で外国に移住して住む人が増えた。外国での辛い生活の中で、韓国のコチュジャンを食べながら、故郷を思い浮かべたに違いない。日本人が梅干しや漬物が好きなことと同じと理解すれば良いことだと思う。そして、植民地時代、韓国の独立のために命をかけた人々も、コチュジャンを食べながら国を守ろうとした。「乙支文徳將軍の歓声だ、階伯將軍の大きい目だ、李舜臣將軍の大きい目だ」というところは、韓国の有名な將軍を取り上げ、民族性を呼び起こそうとしていることが分かる。「農楽の音」は、韓国では秋になると豊作を祈りながら、また感謝しながら、農民が集まって農楽を楽しむ。それを詩に表現した作品で、楽器の名前や楽器の音を利用して、子どもたちに伝統音楽の楽しさを伝えようとしている。「福チョウリ」は、韓国の大晦日や正月に家の壁や本棚などに福チョウリをおくことによって、新年には福があるようにと願うおばあさんの願いがこめられている作品で、子どもたちにおばあさんの温かい心配りに気づかせ、韓国の伝統的習慣を大事にさせるための作品である。

また、韓国語の大切さを表す代表作品としての6-2「言葉の光」は、サランハムニダ（好きです）、コマッサンミダ（ありがとうございます）、ミアンハムニダ（すいません）等の韓国語を通じて、日常生活によく使う言葉の大切さを伝えようとする作品である。

#### G) 教師用指導書には作者を出しているが、教科書には作者の名前を入れてない。

『読み方』の翻訳作品にも現れているように、韓国の小学校の国語教科書には作者を示していない。これは日本と違うところである。日本の教科書の詩は作者を示しており、子どもたちが作者を認識しながら詩を読んでいく。韓国の教科書では教師用指導書には作者を示しているが、児童には教えない。この問題は、児童文学作家がどの程度社会的に認められているかを示している。現在、韓国では全国各地に児童文学者がいるが、まだ専門的に研究したり、書いたりしている作家が少ない。それに比べて日本の場合、詩人として、工藤直子、まどみちお、谷川俊太郎等の作者が自分の作品世界を持ち、多くの特色を出している。特に詩人は子どもたちだけではなく、詩の世界を通じて人間の本質に迫る問題を考えさせるため、大人の読者もかなり確保している。いずれ韓国でも、優れた詩人（児童文学者）が尊敬され、子どもたちや大人に多くの想像力を与えてくれる日が来ることを願っている。

韓国の小学校国語教科書の詩教材を分析すると、以上のような特徴が見られた。教材数が多く、内容的には季節感、儒教思想、伝統文化を取り入れた作品が多い。また表現方法としては、比喩表現、韓国伝統の定型詩（シゾ）重視している。これらの点は、日本の国語教科書の詩教材には見られない特徴である。韓国の小学校国語教科書の詩教材の翻訳（1・2）は、日本の国語教育研究において初めての試みである。日韓の比較国語研究の基礎資料として活用していただければ幸いである。

